

正法眼蔵第三

仏性

（これは、釈尊が大悟されて、「衆生」の本質と
いうものを徹見された。その教えです）

釈迦牟尼仏言（しやかむにぶつごん）、

「一切衆生（いつさいしゅじやう）、悉有仏性（しつうぶつしやう）、如来常住（によらいじやうじゆう）、無有変易（むうへんやく）」

これ、われらが大師釈尊（だいししやくそん）の師子吼（ししく）の転法輪（てんぽふりん）なりといへども、一切諸仏、一切祖師の頂にん眼睛（ちんにんがんぜい）なり。参学しきたること、すでに二千一百九十年（当日本仁治二年辛丑歳）、証嫡（しやうちやく）わづかに五十代（至先師天童浄和尚）、西天二十八代、代々住持しきたり、十方の仏祖、ともに住持せり。

世尊道（せそんだう）の「一切衆生、悉有仏性」は、その宗旨（そうし）いかん。是什麼物恁麼来（ししもぶついんもらい）《是れ什麼物（なにものか）か恁麼（いんも）に来る》の道転法輪（どうてんぽうりん）なり。あるいは衆生といひ、有情（うじやう）といひ、群生（ぐんじやう）といひ、群類といふ。

悉有（しつう）の言（ごん）は衆生なり。群有（ぐんう）也。すなはち悉有は仏性なり。悉有の一悉を衆生といふ。正当恁麼時（しやうとういんもじ）は、衆生の内外（ないげ）すなはち仏性の悉有なり。单伝する皮肉骨髓（ひにくこつずい）のみにあらず。汝（なんぢ）するべし得吾皮肉骨髓（にょくごひにくこつずい）なるがゆゑに。

しるべし、いま仏性に悉有せらるゝ有（う）は、有無（うむ）の有（う）にあらず。悉有は仏語なり、仏舌なり。仏祖眼睛なり、衲僧鼻孔（なつそうびくう）なり。悉有の言（ごん）、さらに始有（しう）にあらず、本有（ほんぬ）にあらず、妙有（めうう）等にあらず。いはんや縁有（えんう）・妄有（まうう）ならんや。心（しん）・境（きやう）、性（しやう）・相（そう）等にかゝはれず。しかあればすなわち、衆生悉有（しつう）の依正（え

しやうき、しかしながら業増上力（ごふぞうじやうりき）にあらず、妄縁起（まうえんぎ）にあらず、法爾（ほふに）にあらず、神通修証（じんづうしゆしやう）にあらず。もし衆生の悉有それ業増上（ごふぞうじやう）および縁起法爾（えんぎほふに）等ならんには、諸聖（しよしやう）の証道（しやうだう）および諸仏の菩提（ぼだい）、仏祖の眼睛（がんせい）も業増上力および縁起法爾なるべし。しかあらざるなり。尽界はすべて客塵（かくぢん）なし、直下（ちよくか）さらに第二人あらず、直截根源人未識（ぢきせつこんげんにんみしき）、忙々業識幾爾休（ばうばうごつしききじきう）《直（ぢき）に根源を截（き）るも人未だ識（し）らず、忙々たる業識幾時か休せん》なるがゆゑに。妄縁起の有にあらず、徧界不曾蔵（へんかいふすんざう）のゆゑに。徧界不曾蔵といふは、かならずしも満界是有（まんかいぜう）といふにあらざるなり。徧界我有は外道の邪見なり。本有（ほんぬ）の有にあらず、亘古亘今（くわんこくのわんこん）のゆゑに。始起の有にあらず、不受一塵のゆゑに。条々の有にあらず、合取（がつしゆ）のゆゑに。無始有（むしう）の有にあらず、是什麼物恁麼來（ししもぶついんもらい）のゆゑに。始起有（しきう）の有にあらず、吾常心是道（ごじやうしんぜだう）のゆゑに。まさにしるべし、悉有中に衆生快便難逢（くわいびんなんふ）なり。悉有を会取（ういしゆ）することかくのごとくなれば、悉有それ透体脱落（てうたいだつらく）なり。

仏性の言（ごん）をきゝて、学者おほく先尼外道（せんにげだう）の我（が）のごとく邪計（じやけ）せり。それ、人にあはず、師をみざるゆゑなり。いたづらに風火（ふうくわ）の動著（どうぢや）する心意識を仏性の覚知覚了とおもへり。たれかいふし、仏性に覚知覚了ありと。覚者知者はたとひ諸仏なりとも、仏性は覚知覚了にあらざるなり。いはんや諸仏を覚者知者といふ覚知は、なんだちが云々（うんぬん）の邪解（じやげ）を覚知とせず、風火の動靜（どうじやう）を覚知とするにあらず。たゞ一両の仏面祖面、これ覚知なり。

往々に古老先徳、あるいは西天（さいてん）に往還（わうげん）し、あるいは人天（にんでん）を化道（けどう）する、漢唐より宋朝にいたるまで、稻麻竹葦（たうまちくゑ）のごとくなる、おほく風火の動著（どうぢや）を仏性の知覚とおもへる、あわれむべし、学道転疎（がくだうてんそ）なるによりて、いまの失誤あり。いま仏道の晚学初心、しかあるべからず。たとひ覚知を学習すとも、覚知は動著にあらざるなり。たとひ動著を学習すとも、動著は恁麼にあらざるなり。もし真箇の動著を会取（ういしゆ）

することあらば真箇の覺知覺了を会取すべきなり。仏之与性（ぶつしよしやう）、達彼達此（たつぴたつし）《仏と性と、彼に達し、此れに達す》なり。

仏性かならず悉有なり、悉有は仏性なるがゆゑに。悉有は百雜碎（はくざつすい）にあらず、悉有は一条鉄にあらず、拈拳頭（ねんけんてう）なるがゆゑに大小にあらず。すでに仏性といふ、諸聖（しよしやう）と齊肩（せいけん）なるべからず、仏性と齊肩すべからず。

ある一類おもはく、仏性は草木（さうもく）の種子（しゆうじ）のごとし。法雨のうるひしきりにうるほすとき、芽茎生長（げきやうしやうちやう）し、枝葉花菓（しえふけくわ）もすことあり。果実さらに種子（しゆうじ）をはらめり。かくのごとく見解（けんげ）する、凡夫（ぼんぷ）の情量なり。たとひかくのごとく見解（けんげ）すとも、種子および花果、ともに条々の赤心（せきしん）なりと参究すべし。果裏に種子あり、種子みえざれども根茎（こんきやう）等を生ず。あつめざれどもそこばくの枝条大團（だいの）となれる、内外（ないげ）の論にあらず、古今の時に不空（ふくう）なり。しかあれば、たとひ凡夫の見解（けんげ）に一任すとも、根茎枝葉みな同生（どうしやう）し同死し、同悉有なる仏性なるべし、

仏言、「欲知仏性義（よくちぶつしやうぎ）、当観時節因縁（たうくわんじせついんねん）。時節若至（じせつにやくし）、仏性現前（ぶつしやうげんぜん）」。

《仏の言（のたまは）く、「仏性の義を知らんと欲（おも）はば、まさに時節因縁を観ずべし、時節若し至れば、仏性現前す」》

いま「仏性義をしらんとおもはゞ」といふは、たゞ知のみにあらず、行ぜんとおもはゞ、証せんとおもはゞ、とかんとおもはゞとも、わすれんとおもはゞともいふなり。かの説・行・証・亡（まう）・錯（さく）・不錯（ふさく）等も、しかしながら時節の因縁なり。時節の因縁を観ずるには、時節の因縁をもて観ずるなり。仏子（ほつす）・拄杖（しゆぢやう）等をもて相観（さうくわん）するなり。さらに有漏智（うろち）・無漏智（むろち）、本覺・始覺、無覺・正覺等の智をもちあるには観ぜられざるなり。

「当観」といふは、能観・所観にかゝはれず、正観（しやうくわん）・邪観（じやくわん）等に準ずべきにあらず、これ当観なり。当観なるがゆゑに不自観なり、不他観なり。時節因縁響（にい）なり、超越因縁（てうを

ついでんねん）なり。仏性響なり、脱体（とつたい）仏性なり。仏々響なり、性々響（しやうしやうにい）なり。

「時節若至（じせつにやくし）の道（だう）を、古今のやから往々におもはく、仏性の現前する時節の向後（きやうこう）にあらんずるをまつなりとおもへり。かくのごとく修行しゆくところに、自然に（じねん）に仏性現前の時節にあふ。時節いたらざれば、参師問法するにも、辨道功夫するにも、現前せずといふ。恁麼見取（いんもけんしゆ）して、いたづらに紅塵にかへり、むなく雲漢（うんかん）をまぼる。かくのごとくのたぐひ、おそらくは天然外道（てんねんげどう）の流類（るるい）なり。いはゆる「欲知仏性義」は、たとへば「当知仏性義」といふなり。「当観時節因縁」といふは、「当知時節因縁」といふなり。いはゆる仏性をしらんとおもはば、しるべし、時節因縁これなり。「時節若至」といふは、「すでに時節いたれり、なにの疑著（ぎぢや）すべきところかあらん」となり。疑著時節さもあらばあれ、還我仏性来（げんがぶつしやうらい）《我に仏性を還し来れ》なり。しるべし、「時節若至（じせつにやくし）」は、十二時中空過なり。「若至」は、「既至」といはんがごとし。時節若至すればすべし、仏性不至（ぶつしやうふし）なり。しかあればすなはち、時節すでにいたれば、これ仏性の現前なり。あるいは其理自彰（こりじしやう）なり。おほよそ時節の若至せざる時節いまだあらず、**仏性の現前せざる仏性あらざるなり。**

趙州（でうしう）實際大師にある僧とふ、

「狗子還有仏性也無（くしわんうぶつしやうやむ）へ狗子にまた仏性ありや無（いな）や」。

この間の意趣あきらむべし。狗子（くし）とはいぬなり。かれに仏性あるべしと問取せず、なかるべしと問取するにあらず。これは、鉄漢また学道するかと問取するなり。あやまりて毒手にあふ、うらみふかしといへども、三十年よりこのかた、さらに半箇の聖人（しやうにん）をみる風流なり。

趙州いはく、「無（む）」。

この道（だう）をきゝて、習学（しふがく）すべき方路（ほうろ）あり。

仏性の自称する無も恁麼なるべし、狗子の自称する無も恁麼道（いんもだう）なるべし、傍觀者の喚作（くわんそ）の無も恁麼道なるべし。その無わづかに消石（せうしやく）の日あるべし。

僧いはく、「一切衆生皆有仏性、狗子為甚麼無（くしゐじんもむ）へ一切衆生皆（みな）仏性有り、狗子甚麼（なに）としてか無き」。

いはゆる宗旨（そうし）は、一切衆生無（む）ならば、仏性も無なるべし、狗子も無なるべしといふ、その宗旨作麼生（そもさん）、となり。

狗子仏性、なにとして無をまつことあらん。

趙州いはく、「為他有業識在（ゐたうごつしきざい）へ他に業識の在るこ
と有るが為なり」。

この道旨は、「為他有」は「業識」なり。「業識有」、「為他有」なりとも、
狗子無、仏性無なり。業識いまだ狗子を会（うい）せず、狗子いかでか仏
性にあはん。たとひ双放双収（さうほうさうしう）すとも、なほこれ業識
の始終なり。

趙州有僧問「狗子還有仏性也無（くしわんうぶつしやうやむ）」。

（趙州に僧有つて問ふ、「狗子にまた仏性有りや無（いな）や」）

この問取は、この僧、搆得趙州（こうてでうしう）の道理なるべし。し
かあれば、仏性の道取問取は、仏祖の家常茶飯なり。

趙州いはく、「有（う）」。

この有（う）の様子は、教家（けうけ）の論師（ろんじ）等の有（う）
にあらず、有部（うぶ）の論有（う）にあらざるなり。すゝみて仏有（ぶつう）
を学すべし。仏有は趙州有なり、趙州有は狗子有なり。狗子有は仏性有な
り。

僧いはく、「既有（きう）、為甚麼却撞入這皮袋（ゐじんもきやたうにふ
しやひたい）へ既に有ならば甚麼（なに）としてか却（また）この皮袋に撞
入する、」。

この僧の道得（どうて）は、今有（こんう）なるか、古有（こう）なる
か、既有なるかと問取するに、既有は諸有に相似せりといふとも、既有は
孤明なり。既有は撞入すべきか、撞入すべからざるか。撞入這皮袋（とう
にふしやひたい）の行履（あんり）、いたづらに蹉過（さこ）の功夫（くふ
う）あらず。

趙州いはく、「為他知而故犯（あたちにこぼん）へ他、知りて故（ことさら）に犯すが為（ため）なり」。

この語は、世俗の言語としてひさしく途中に流布（るふ）せりといへども、いまは趙州の道得（どうて）なり。いふところは、しりてことさらをかす、となり。この道得は、疑著（ぎぢや）せざらん、すくなかるべし。いま一字の入（にふ）あきらめがたしといへども、入之一字（にふのいちじ）も不用得（ふようて）なり。いはんや欲識庵中不死人（よくしきあんちゅうふしにん）豈離只今這皮袋（きりしきんしやひたい）へ庵中不死の人を識らんと欲（おも）はば、豈只今（あにいま）のこの皮袋を離れんやなり。不死人はたとひ阿誰（おすい）なりとも、いづれのととき皮袋に莫離（もり）なる。故犯（こぼん）はかならずしも入皮袋ににあらず、撞入這皮袋（とうにふしやひたい）かならずしも知而故犯（ちにこぼん）にあらず。知而（ちに）のゆゑに故犯（こぼん）あるべきなり。しるべし、この故犯すなわち脱体の行履（あんり）を覆蔵（ふざう）せるならん。これ撞入と説著（せつぢや）するなり。脱体の行履、その正當覆蔵のとき、自己にも覆蔵し、他人にも覆蔵す。しかもかくのごときなりといへども、いまだのがれずといふことなかれ、驢前馬後漢（ろぜんばごかん）。いはんや、雲居高祖いはく、「たとひ仏法迦事を学得（がくて）する、はやくこれ錯用心了也（さくようじんれうや）」。

しかあれば、半枚学仏法迦事（はんまいがくぶつぽふへんじ）ひさしくあやまりきたること日深月深（につしんがつしん）なりといへども、これ這皮袋（しやひたい）に撞入（とうにふ）する狗子なるべし。知而故犯（ちにこぼん）なりとも有仏性なるべし。

（岩波文庫「正法眼蔵」より）

（お断り・原文には太字での記載はありません）